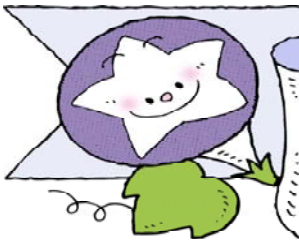
Welcome to the
サイエンス・ワールド!!

2012, 7, 17(火)
第31号
那覇市立教育研究所
理科通信



天気予報のカギ
～アメダス雨量計ってどんなもの？～

先週は九州北部で11日から14日まで降り続いた大雨によって，土砂災害や川の氾濫など大きな被害が相次ぎました。新聞やテレビ報道などで目にした人も多いでしょう。

気象庁は，この集中豪雨について、「平成24年（2012年）7月九州北部豪雨」と命名したと発表しました。

さて昨年の植生調査中，糸満市の具志川城跡でアメダス（AMeDAS）の雨量計を見つけました。アメダスとはAutomated Meteorological Data Acquisition Systemの頭文字を並べたもので，「地域気象観測システム」の通称です。

アメダスで観測している気象要素は降水量，気温，日照時間，風向・風速などです。沖縄気象台では，この４つの要素を観測している地点が18カ所，降水量のみを観測している地点が７カ所あるそうです（ただし，具志川城跡の雨量ますは沖縄気象台の設置ではないようです。県か，民間気象予報団体のものかもしれません）。

転倒ます型雨量計は，じょうごの下に三角のますがあり，ひとつのますに0.5ミリの水がたまると転倒するようになっているのです。それが何回転倒したかで，降った雨の量を量ります。画像の右側にある四角い箱は，揺れの記録をする装置です。転倒ますが倒れるごとにパルスが発生する仕組みとなっているので，一定時間内のパルスを測ることにより雨量を観測するというわけです。0.5mm用の転倒ますで，1時間に100パルスあったとすると，その時間雨量は50mmになるのです。

（文責・スケッチ：玉村かおり）